



中国がわかるシリーズ 32 唐宋革命（中）

ライフネット生命保険株式会社
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

大運河と結びついた海の中国では、宋の時代に、ジャンク船と呼ばれる頑丈な大船（竜骨を持ち、防水横隔壁を持つ）が開発、改良されるなど海運技術が急速に向上し、海のシルクロードは飛躍的な発展を遂げました（966年、早くも宋は、南海貿易を管轄する広州市舶司を設置しています）。

当時は、広州、泉州、明州＝寧波が3大貿易港でした。また、宋初の福建の漁師の娘が、媽祖として、船乗りの守護神となって行きます。いわば、政治革命（前述した皇帝独裁制）、農業革命、火力革命、海運革命などが同時に生じたのです。これを唐宋変革と呼ぶ学者も多数います。

このような大きな変化は、思想・宗教や人間精神の在り方にも深い影響を与えずにはおれませんでした。例えば、仏教は鎮護国家を目的とする首都の国家仏教から、庶民を巻き込んだ地元密着型の仏教へと変化を遂げていきました。村落の祭祀の対象も、没個性的な豊穡の精霊から人格神へと移行します。阿弥陀如来の救済、弥勒菩薩の来臨を期待する他力本願的な浄土信仰が庶民に喜ばれ、士大夫は禅で修身に励みました。

また、華やかで写実的な唐三彩とシンプルで抽象的な宋磁器では、明らかに文化が異なるように思われます（わが国の侘び寂び文化の源流は、禅宗と共に宋からもたらされたものが大半です）。なお、羅針盤が発明され、唐代から実用化されていた火薬や印刷（木版）術が、長足の進歩を遂げたのも宋初のことでした。油を使った加熱法が改良され、今日の中国料理の原型もほぼこの頃に出来上がりました。このように、中国の長い歴史の中でも、宋の持つ重要性は画期的なものがあります。